

# 談話標識 *you know* : 認知語用論的接近

木内 修

## 1. はじめに

本稿は、談話標識<sup>1</sup>の一つである *you know* (y'know)を談話とその参与者との関わりに着目しつつ、認知語用論的観点<sup>2</sup>から *you know* の諸機能を記述・説明することが目的である。研究対象が談話標識であるので、必然的に検討例文は一文レベルではなく、複数にわたる文の集合体である談話レベルになる。また、このような談話レベルの研究には、発話における意味解釈プロセスの研究が必要となるので、Grice の会話の協調の原理や会話の公準、そして Sperber と Wilson による関連性の原理といった語用論的接近法が優れていた。しかし、言葉の背後に存在する主体の認知能力の観点や話者と聴者の間で交わされる手ぶり、表情をはじめとするノンバーバル的な要素も問題解決の手がかりとして重要な状況文脈となり、これらに関する部分の考察が、従来の語用論研究では、等閑視される恐れがあるのである。したがって、本稿では、それらも研究対象の領域に含めるべく認知語用論を研究の道具立てに選択する。

また、議論の中心が、*you know* という談話標識であり、先行する発話が後続する発話をコントロールし、かつ相互に関係づけ、談話の流れを決め、ことばによる相互行為を円滑に運ばせるために必要な情報を提供するため、この *you know* が生起する前後の談話の流れに関する詳細な情報が必要となる。そこで本稿では、提示する例文の前後で内容理解を促す和訳や解説を適宜行いながら記述・説明を試みることにする。

まず、談話標識の *you know* とそれとは似て非なるものをここで確認しておく。

(1)a. You know (that) there's nothing quite as refreshing as a Coca-Cola, don't you?

b. You know, there's nothing quite as refreshing as a Coca-Cola, isn't there?

(Schourup and Waida 1988:173)

(1a)の *you know* は付加疑問文の仕方から分かるように主節として命題の中に組み込まれているものであり、一方(1b)の方は命題の外で使用しているものであり、これが談話標識 *you know* である。

さて、ここで Collins Cobuild(2004)での定義と実例を参考にしてみることにする。

28. You use *you know* to **emphasize** or to **draw attention** to what you are saying.

**(SPOKEN)**

*The conditions in there are awful, you know...*

*You know, it does worry me.*

CONVENTION emphasis

29. You use *you know* when you are trying to **explain more clearly** what you mean, by referring to something that the person you are talking to knows about.

**(SPOKEN)**

*Wear the white dress, you know, the one with all the black embroidery.*

CONVENTION

言語使用域としては、口語で使用され、機能的には強調したり、聴者に注意を喚起したりする。また、聴者にとっての既知情報に関して、より詳細に説明することを試みる際に用いられる。このように英語辞典にも談話標識の *you know* についての記述がなされてはいるが、どのような統語的条件（文頭・文中・文末）や意味的条件（生起する談話の流れ）において使用されるかの研究については、未開拓に等しい。いわゆる文脈の流れに依存して意味解釈が決定する語句を本稿では、その統語的条件や意味的条件を口語・文語に関わらず検討し、*you know* の意味解釈のシステムを明らかにする。このことは、英語に対して言語直感が働かない日本語母語話者にとって有益な知見となる。

さて、Biber *et al.*(1999:1045)によると、そもそも会話とは、二人以上の参加者が組み立てるものであり、進行中のやり取りに表現を動的に適応させていくものである。また、会話が情報のやり取りとした場合、その情報に関して、話者は聴者が当該事項に関して既知であることを知っている場合と知らない場合がある。そして話者は聴者が当該事項に関して未知であることを知っている場合と知らない場合が、さらに論理的な組み合わせとして存在する。Schiffrin (1987:268) の指摘を個別に解説すると(a)は、(聴者が)知っていることを(話者が)知っている場合であり、(b)は知っていることを知らない場合である。また、(c)は(聴者が)知らないことを(話者が)知っている場合であり、(d)が知らないことを知らない場合である。

		話者は聴者が X を知っていることを知っているか	
		yes	no
聴者は X を知っているか	yes	(a)	(b)
	no	(c)	(d)

(Schiffrin, 1987:268)

実際の会話では、相手の知識は直接的には分からず、「知っていると思っている」や「知らないと思っている」というメタ的な知識で会話の参加者内で、やり取りがなされている。そして、会話の参加者は知の共有をお互いに認識できる状態である(a)に至ることを目指している。話者と聴者は、お互いに理解し、知識を共有することが会話の主たる目的である。機能面から考えると、話者が当該事項を聴者の既知事項だと判断して発話 (*You know* を含む) をするのが、「確認」機能であり、話者にとって、当該事項に関する聴者の知識の有無が分からないまま、発話するのが「(新) 情報提示」機能である。よって、(b)や(d)の場合は、話者にとって手探り状態やピンボケ会話（情報伝達の破綻や談話の冗長性）が発生するこ

とになる。

## 2. 事例検討

さて、ここから *you know* が生起する位置によって分類し、その機能を検討していくことにする<sup>3</sup>。

### 2. 1 文頭

(2) Washington: I grew up in the church. My father is ... was a minister of 50 years, so the delivery is...is similar. **You know**, you set up something, and then you sort of knock 'em down, **you know**. (CNN) <sup>4</sup>

文頭の *you know* は、注意を引き付けるためであり、文末の *you know* は、話者の発言をトレースするための確認行為である。

(3)Cruise: We've...we've lived a life together. **You know**, I'm now with Penelope Cruz, she is with...with another. (CNN)

この談話の展開機能を実現している *you know* は、同時に新情報提示の合図でもある。註の3でも言及しているように談話上のつながりを考慮に入れると、あくまでも文頭とは文レベルの問題であり、談話の流れといったパラグラフレベルで考えると、文頭は文の始発であるが、前文との関係で後続部分でもあり、文中での機能と共通のものを有していても自然である。

さて、つぎの(4)は、喚起機能とも言うべき *you know* である。共感や同調を誘う、定冠詞や *old* という形容詞を使用していることから、聴者の意識に上らせるという意味で新情報であり、リスト文と類似した提示機能と考えるとよいだろう。また、(5)の *y'know* に後続する節は疑問詞が付いてはいるものの、聴者に尋ねているわけではない。彼が男であるという共通した知識から展開し、ただ、*Animals!*を導出するための手段に過ぎないのである。

(4)Madonna: I think everybody does. It's like that, what, the old watching-the-car-accident thing. **You know**, you can't take your eyes off of it (CNN)

(みんながすることだと思う。あのよくある自動車事故を見るような。ね、目を離せないでしょ。)

(5)'No. Harry was crazy about me.'

'Then why do you think he left you?'

'Because he was a man. An' y'know what men are? *Animals!*

(Sidney Sheldon, *The Naked Face*)

(「いや、ハリーは私に夢中なのよ。」「それじゃ、何で彼は去ったんだ。」「男だから。いい？ 男たちがなんだか知っているでしょ。動物なの。」)

次の(6)では、sort of という「緩和表現(hedge)」を使用しているところから判断して適切な語句が見つからず、よく言われるところの間繋ぎ機能として使用していることが分かる。さらに First of all という同一語句の反復によって文の建て直し、つまり発話の再開のシグナルとして you know が使用されている。この turn-taking という話者交替は談話の再開の宣言ではあるが、別の機能から考えると、主張のために聴者を引き付けるマーカの下位類ともなる。

(6)Norton: Yeah, that...that's just like grabbing at, you know, today's headlines, and then, you know, sort of ca...you know, glibly lumping in some sort of associative link between a film like this and that. But first of all...

Pitt: Without any fair investigations.

Norton: First of all, you know, this isn't a film about guns. It's not a film about that kind of stuff. (CNN)

つぎの(7)と(8)の事例は、意外性を含んだ文脈で you know が生起している場合のものである。

(7) 'Well; what about the boy?'

'Oh!' replied the undertaker; why, you know, Mr. Bumble, I pay a good deal towards the poor's rates.' (Charles Dickens, *Oliver Twist*)

「えっと、例の少年はどうだい。」「ああ」葬儀屋は答えた。このような先行文脈において質問などに対する簡単な抗議を表すための why を用いて、「なあに、いいかい、バンブルさん、わたしは貧乏人の税金をたっぷり払っているんですよ」と抗議して、そして反論を行っている。

(8)'Oh, you know, Mr. Bumble, he must be mad,' said Mrs. Sowerberry.

(Charles Dickens, *Oliver Twist*)

「おお、ハンブルさん、あいつは頭が変になったにちがいないですよ」という発話において、意外性を表現する oh に後続する you know によって、話者の判断を述べており、法助動詞 must が使用されている。

つぎの(9)は、you know の使用により聴者に意識を集中させ、通俗的な理解を否定し、セミコロン以下で話者の主張を行っている。さきほどの意外性を表現する oh に後続する you know と類似していて、ここでは逆接の接続詞 but に後続する you know の事例である。

(9)That's obvious; but, you know, that's not the part that interests me most: whether it's true or not, and what it means; the part that interests me is that such things should happen to such people. (W.S. Maugham, "Honolulu")

(当たり前だ、しかしいいかい、私の一番興味のあるのは、それが真実か否かとかその意

味するところではないんだ。つまり、興味をもっているのは、あんなふうな人にあんなことが起きると言うことだ)

(10) の事例は、聴者にとって発話内容が容易に理解できるための仕掛けとして、一般論へ収斂するよう、助走路的に機能している **you know** である。いわゆる同意を求める **you know** である。具体的に説明するとプロポーズを拒絶され、バンガローへ行くことが出来なくなり、彼女に会うこともできなくなるかもしれないといった、迷い (*hesitate*) があったが、**you know** 以下の一般論を持ち出すことで、そのあとの **I did ask her at last** と強調の助動詞(*did*)や長らく待ち焦がれていたことを意味する副詞類(*at last*)の使用によって、読者にも共感できる仕掛けとなっている。

(10) **And there was another thing that made me hesitate. I couldn't bear the thought that if I proposed to her and she refused me she wouldn't let me come to the bungalow in the same old way. I should have hated that, I enjoyed going there so awfully. It made me so happy to be with her. But you know, sometimes one can't help oneself. I did ask her at last, but it was almost by accident.**

(W.S. Maugham, "The Book-Bag")

(11)は、他の談話標識 **well** との組み合わせによるものである。

(11) **"He says he couldn't help himself. He says he had to. What does it mean?"**

**"Well, you know, in his way he's just as attractive as you are. He has so much charm. I suppose he just fell madly in love with some girl and she with him."**

(W.S. Maugham, "The Book-Bag")

結婚しなくてはならなかったという彼の発言を報告したことに対して、**What does it mean?**と尋ねられ、その返答として、**Well** とまず、溜めがあり「あなたに負けず劣らず彼は魅力的であり、本当、大変素敵である」ということが、あたかも事実として自明なことであると主張するために **you know** を使用している。説得を効果的に成立させるための仕掛けである。また、ここで **so much charm** と指示副詞であり、程度副詞としても機能している **so** は、先行する **you know** において聞き手にとって常識といってもよい、聞き手自身と「彼」の情報を提示することで使用可能な場面になっている。

(12)においては、聴者に共感をもとめるように**"Oh, no!"**を繰り返し、意外な心情を吐露する形での発話である。

(12) **Ryan: It was kind of like the big "Oh, no!" (laugh), you know. "Oh, no! I'm in love with you? Oh, no!" That feeling.** (CNN)

また他に、聴者に注意を引き付ける以前に話者自身の発話内容を整える機能も(13)のような事例から見て取れる。ここでは、文頭では軌道修正(構文や主語の立て直し)のために、

you know が使用されている。

(13)King: There was the samurais...

Cruise: There was...Absolutely. There was the samurai. There were people...you know, the Japanese went out and hired people from America, all over Europe. The trade agreements, that's all true. (CNN)

意外性を表現する oh に後続する you know や、逆接の接続詞 but に後続する you know の事例で判断できるように、文頭に生起する you know には意外性や逆接を意味する語句と共起しやすい。そもそも一般的に先行文脈をキャンセルする機能の語彙は、その後続要素に話者が主張を置く場合の常套手段である。いま考察対象となっている文頭に生起する you know の機能も同様に、聴者の意識を you know に後続する部分に引き付けるものであることが分かる。また、you know は turn-taking という話者交替は談話の再開の宣言であり、別の機能から考えると、主張のために聴者を引き付けるマーカの下位類ともなる。

## 2. 2 文中

(14)の文中では、間繋ぎのために使用し、文末では念押し・強調のために you know が使用されている。また、念押し後、I mean によって話者の真意を伝達する試みがなされ、相手の反応を観察しながら調整する相互作用的な発話がみられる。

(14)CNN: Three years ago, it was sort of the, you know, example of clean-living, and do you think that's changed?

Spears: I think I'm still clean-living, you know. That's...I mean, when I...I don't go home and have orgies or anything like that. (CNN)

(15)の引用の前半部分は(13)の事例の再録となり、文頭の軌道修正（構文や主語の立て直し）のために you know が使用され、文中では that beautiful culture の指示対象を明示するために適切な語句を模索するために間を繋ぐ you know が使用されている。

(15)Cruise: There was...Absolutely. There was the samurai. There were people...you know, the Japanese went out and hired people from America, all over Europe. The trade agreements, that's all true. The times are true. The...It is a fictional adventure picture. But, you know, when...when we came in, what Ed wanted to do, what we all wanted to do was really honor that beautiful culture, you know, the Japanese culture, and honor their...their history and their heritage. (CNN)

(16)での you know は展開機能というべきもので、固有名詞から話者との関連付けを明示することによって、聴者に理解可能な状態を提示している。新情報の追加は、情報的にも注目値するものであり、聴者の喚起を促す必要性がある。つまり意思伝達の効率性を高めるための手段となっている。(17)では"going fallow"という特殊用語の使用後の説明（展開

の一種)として you know が使用され、相互に理解可能な状態となるように談話が組み立てられている。さらに(18)でも the fullness of time という特殊な比喩表現の使用後に具体的表現を展開しているものと考えられる。相互に理解可能な状態となるように談話が進行していることがわかる。

(16)Forster: But it was especially David Fincher, you know, somebody that I wanted to work with for a long time. (CNN)

(17)Crowe: Between...between characters I...I do what I call "going fallow," which is a...a farming term, you know— if, you know, you rotate your crops and for...for one season, you know, you have nothing in the paddock. And, that's basically, you know, what I like to do between times. You know, I don't... (CNN)

(18)Crowe: I think in the fullness of time, you know, I think over a period of time when people really get to know you...they get to know you through...through your work and interviews like this,... (CNN)

(19)における補部の直前での you know は単なる間繋ぎ機能ではなく、情報量の多い語句の前で相手(聞き手)に注意を促すためであり、意思伝達の効率化を図るものである。I love Bond という先行する情報に対して、聴者の想定内の(I was)delighted to see that it was a Bond girl という自然な流れに同意してもらえると判断しての発話である。

(19)King: So you were a fan?

Berry: Yeah. I...I love Bond. So when I got the script, I was, you know, delighted to see that it was a Bond girl that had, you know, a lot of character.

(CNN)

(20)の hard to describe の部分では、相手に対して理解させるのが困難だけではなく、話者自身にも言語化するのが困難な状態になっているのが見て取れる。情報内容の精緻化という換言には2つの型があり、話者指向と聴者指向とが考えられる。話者指向とは、発話内容の整理であり、当該内容を再考する結果に繋がる。一方、聴者指向とは、聴者の理解を的確なものにすべく適切な語句を選択するためのものである。

(20) King: You bring yourself to it, so that's part of you.

Kidman: You do, yes. And you go...and it's hard to describe. I mean...I mean, you look at Virginia's writing and she puts so much of her, you know, experiences, her personal struggles into her writhing. (CNN)

さらに伝達情報の精緻化の事例を提示していく。

(21)He was handsome in a way, with curly hair and pink-and-white cheeks. Women thought a lot of him. There was no harm in him, you know, he was only wild. Of course he drank too much. Those sort of fellows always do. A bit of money used to come in for him once a quarter and he made a bit more by card-playing.

(W.S. Maugham, "A Friend in Need")

彼の性格が no harm であることを you know で確認し、he was only wild を主張として前言を詳細化している。

(22)Their governess was a Miss Robinson, quite a nice girl, young, you know , twenty or twenty-one, and rather pretty. I would never engage a governess who was young and pretty. One never knows. (W.S. Maugham, "A String of Beads")

(22)では、quite a nice girl, young という漠然とした表現から twenty or twenty-one, and rather pretty といったより具体的な描写に言い換えている。

(23)King: Is this something that could be the big one?

Crowe: Well, we'll just see. I'm not one for making predictions or, you know, that sort of thing. (CNN)

ここでは換言の意図が or によって表現され、さらに間繋ぎ (you know) をおこなったが、換言不成立となり、結果的に情報の精緻化もできず that sort of thing という漠然とした表現となっている。

つぎの2つの事例は you know の直前または、直後にダッシュが生起するものである。

(24)...; then they said that although of course they were under no obligation— you know the silly, pompous way men talk when they're trying to be businesslike— they were instructed, as a solatium or whatever you call it, to offer her a cheque for three hundred pounds. (W.S. Maugham, "A String of Beads")

このダッシュに後続する you know はその前に of course、そして直後に定冠詞が生起している。「意識的に事務的な話し方をする、あの馬鹿にもったいぶった奴だな。」という意味内容で、ここでのダッシュに後続する you know は主張部分を卓立させるための「溜め」であり、「間」である。さらに、具体的に検討すると、of course は話者にとっては言う必要がないほど当たり前と思える内容であると伝えるものであり、ダッシュによって物理的な間が生じ、その後のさらなる主張に繋がっている。定冠詞の使用から考えて、確認や想起を促す you know であると判断できるものである。

(25)And they got the little house in the suburbs and they marry, and they have his old mother to live with them, and he goes to the bank every day, and if she's careful not



to have babies she can still go out as a governess, and he's often ill—with his wound, you know— and she nurses him, and it's all very pathetic and sweet and lovely.'

(W.S. Maugham, "A String of Beads")

(25)は、you know の後にダッシュが生じる構造である。この you know が使用される状況を具体的に内容説明すると、結婚相手の身体が良くないという前提で、この談話が流れているので、それを想起させるために、改めて he's often ill—with his wound と提示し you know で念を押している。それを受けて、順接の and によって旦那の世話をするという描写を踏まえて、very pathetic and sweet and lovely という価値判断を主張することが自然な談話の流れにしている。you know に後続するダッシュは、聴者に前提を想起させるための間であることが分かる。

つぎに、話者の主張に対する聴者への説得機能の事例を検討することにしよう。まず、基本事項の確認のうえで、情報の展開を行っているケースである。

(26)'It'll be a treat to the old fellow to talk his own lingo for a bit. He's ninety-three, you know.'

For the last two years, not because he was ill but because he was old and destitute, he had lived in the hospital and it was here that I visited him.

(W.S. Maugham, "French Joe")

「自分自身の国の言葉が話すことが出来れば、例の老人にとっては、嬉しいことでしょう。93歳ですからね。」と漠然とした年齢表示の the old fellow から ninety-three という詳細な情報を提示、その直前の主張の妥当性を訴える効果がある。さらに、知識が共有されている部分(定冠詞付きの the old fellow という名詞句)を利用し、周知の事実として同意させ、さらに情報を追加(ninety-three という詳細な情報を提示)することによって、主張の妥当性を強化する機能を持っている。

(27)Edgar Linton, after an inquisitive stare, collected sufficient wit to recognise her.

They see us at church, you know, though we seldom meet them elsewhere.

(Emily Bronte, *Wuthering Heights*)

(エドガーは探るようなまなざしで見つめていたら、彼女の何を誰だか認識し、心落ち着けた。教会で顔を合わせるからさ、他じゃ滅多に会わないけれど。)

(27)は彼女が誰なのかを認識した (recognise her) という当然の理由を述べ、you know で補足的に情報を提示している。また、(28)は、複数理由のあるうち、一つ目の理由を提示し、セミコロンの後で、最大の理由を提示する前の談話標識 you know の挿入で、聴者に理解可能な状況を差し出す効果がある。

(28)Joseph and I were the only two that would stay. I had not the heart to leave my charge; and besides, you know, I had been his foster-sister, and excused his

behaviour more readily than a stranger would.

(Emily Bronte, *Wuthering Heights*)

(留まるのは、ジョセフと私の二人になった。私は、自分の任務(子供の世話)を捨てて去るつもりはないし、それに加えて、いいですか、わたしは彼とは里子の姉の関係だったので、他の人よりは、彼の素行には我慢できたのです。)

(29) I'm older than he is, you know, and wiser: less childish, am I not?

(Emily Bronte, *Wuthering Heights*)

年齢という客観的事実を共有知識として提示し確認するために *you know* と念を押し、主張である主観的判断として *wiser: less childish* と発話している。

(30) ...and we'd have a game at blindman's-buff; she should try to catch us: you used to, you know, Ellen. He wouldn't: there was no pleasure in it, he said...

(Emily Bronte, *Wuthering Heights*)

(そして私たちは「鬼さんこちら」をやろうとしてたんです。彼女が私たちを捕まえることにして。あの、あなたが以前やっていた、エレン。彼は、やろうとしないんです。面白くないって、言って。)

聴者にとっての旧情報であることが事実である *you used to* を提示し、*you know* で足場を固め、相反する態度を *He wouldn't* と効果的に叙述している。認知言語学的には、参照点からターゲットへ聴者の意識を移動させる機能を有している。

(31) 'Joseph and I generally go to chapel on Sundays:' the kirk, you know, has no minister now, explained Mrs. Dean; and they call the Methodists' or Baptists' place (I can't say which it is) at Gimmerton, a chapel.

(Emily Bronte, *Wuthering Heights*)

*the kirk* (スコットランド教会) を *chapel* (礼拝堂) として呼んでいる理由を *you know* を説明開始の合図として機能している。主題から題述の流れにおいて、主題の直後に *you know* を挿入すると、間をおくこととなり、その結果、題述に注目させる効果がある。

(32) 'You've had a long walk, you know, or I wouldn't mention it. Now, will you take a little drop of something, Mr. Bumble?' (Charles Dickens, *Oliver Twist*)

「ねえ、長いこと歩いたんだから、本当に。さあ、ちょっと一杯しませんか。」という流れで、一番明示的な聴者自身の行為についての発話は自然な説得手段であり、話者と聴者との共通知識である旧情報を利用した事例である。

(33) 'What do you mean, Bill? Do you know what you're doing?'

'Know what I'm— Oh!' cried Sikes, turning to Fagin, 'she's out of her senses, you know, or she daren't talk to me in that way.'

(Charles Dickens, *Oliver Twist*)

(「おれが何をやっているんだって、おお」とサイクスはフェイグンの方を向きながら叫んだ。「彼女は頭が変になっちゃったんだよ、なあ。じゃなきや、わたしにあんな風に口をきくはずないからな」)

(33)は、主張とその確認、さらにその根拠を提示している。you know で間を持たせ、選言の or を使用することによって、その主張の前提部分に妥当性があることを強調している。

(34)"And you don't have to worry about me. My blood pressure is normal, and my cholesterol count last time was, if anything, on the low side. Being a bit heavy is all to the good for drinking, you know: You can soak up a lot of booze without damage."

(Thomas Berger, *Best Friends*)

you know によって「ほら・・・」と既知情報を提示し、説得・納得させ、さらに you know に後続するコロンので、共有すべき知識を開示している。同値を意味するコロンの利用である。

(35)"We could take you in now, you know, if you liked."

"No, it's all right, thanks. I'll see my own doctor."

(Pat Barker, *Border Crossing*)

(35)の第一文は、相手の意向を聞いている機能がある。その証拠には、聞き手が no と答えている。さらに補足的に if you liked と条件付けを行っているため丁寧な発話となっている。

(36)Yesterday, you know, Mr. Earnshaw should have been at the funeral.

He kept himself sober for the purpose - tolerably sober: not going to bed mad at six o'clock and getting up drunk at twelve.

(Emily Bronte, *Wuthering Heights*)

Yesterday という主題(theme)の提示の後、一体どうしたのかと言う題述 (Rheme) を導出するためのその露払い的機能として you know を使用している。結果的に主題がさらに注目を受けて、卓立することになっている。

(37)"That's right. Forgive them. I've loved them, you know, always loved them."

(W.S. Maugham, "Mackintosh")

(「そうだ。彼らを許したまえ。わたしは彼らを今まで愛してきた。いいか、いつも愛しているのだ」)

(37)は、完了相の表現した内容を **you know** によって確認した上で、さらに高頻度の意味を示す副詞 **always** を情報追加することで強意表現となっている。

文中での **you know** は、単なる間繋ぎ機能といった単純なものだけではなく、新情報の提示を聴者に意識させる機能や、伝達情報をさらに精緻化するための仕掛けがあることが判明した。これら広義の新情報は、聴者がその情報を入手した瞬間から、話者と聴者との間に構築された共通知識となり、情報のやり取りをする中で絶えずドメイン変更がなされ、その領域は拡張されていくのである。とくに主題や主語の直後に生起する **you know** には、トラジェクターに対する確認機能がある、確認の後、そのままランドマークへ情報が確認・追加されていくという構図を形成しているのである。

## 2. 3 文末

### 2. 3. 1 通常の文末 **you know**

ここでは、文末に生起する **you know** を通常のパターンについて検討していく。

(38)CNN: Do you watch a lot of CNN?

Spears: Oh, CNN? All the time. All the time, **you know**. (CNN)

All the time を反復した後、文字通り「分かっているでしょう、当然でしょ」との意味である。ここでも、意外性を表現する oh に呼応する形での **you know** である。

(39)Bowie: You just have to be a continuing part of what's going on, **you know**. I enjoyed that. (CNN)

先行する内容に対する話者自身の価値判断・態度表明であり、指示代名詞 **that** を使用して発言内容を大枠で括る総括機能として働いている。この総括機能は、文の締めくくりとしてふさわしい機能である。

(40)King: How have you been able, though, to avoid in...the intensity of that in a public life?

Forster: I don't know. I mean, I just...I'm not that...I'm just not that public person, **you know**. It's just not my personality. (CNN)

「言い淀み」のあと、相手の想定している内容を否定し、相手の持っている知識の修正を促している「情報修正」の機能であり知識を共有し、確実にするためにも有効な段取りである。

(41)Hawk: My favorite part of the movie is probably this kind of weird relationship that develops between my character and Angelina's, **you know**. He witnesses this terrible crime, becomes the only person who has...who has seen the serial killer, also, somebody who they think is gonna be the next victim and because of that, gets all involved in the investigation and starts messing it, **you know**, by falling in love with her. (CNN)

最初の **you know** は **weird relationship** (不思議な関係) ということをもったいぶって提示し、後続部分で展開しているところまで聴者の意識に残るように注意を払わせている。2 つめの **you know** は、どのように **messing it** (混乱) するのか、そして前半部分のアンジェリーナとの「不思議な関係」を後続部で明示化している。談話の流れとしては、「喚起」から「新情報提示」というものになっている。

(42)Tears sprang to his eyes and rolled down his cheeks. ('It was grotesque, he's fat, you know.')

(W.S. Maugham, "Giulia Lazzari")

抽象的・一般的な **grotesque** という語から **fat** という具体的・特殊な語に展開している。一般的な概念から特殊な概念の流れは、旧情報から新情報への流れと同じように聴者によって概念化しやすく、その置換で理解し得たかを **you know** で確認している。認知言語学的には、参照点からターゲットへという構図である。

(43)But listen, my little one, you mustn't be silly, you know. The managers won't be too pleased with me if I make a lot of chichi, I have to think

(W.S. Maugham, "His Excellency")

**listen** で聴者に注意を向けさせ、**you know** で確認を取るといった確実な談話の流れを確保する機能である。情報伝達の確実性・安定性を保証する手段と考えられる。

(44)It had a very jolly little club and there were some quite decent people. There was the schoolmaster and the head of the police, the doctor, the padre, and the government engineer. The usual lot, you know.

(W.S. Maugham, "The Book-Bag")

**There was the schoolmaster and the head of the police, the doctor, the padre, and the government engineer.** という提示文を定冠詞つき名詞句 **The usual lot** で受け、提示した情報とその価値判断を聴者に **you know** によって確認している。これも情報伝達の確実性・安定性を保証する手段と考えられる。

(45)Of course I loved her as much as ever, but I kept it to myself. I have a good deal of self-control, you know. I had a sort of feeling I hadn't a chance. I hoped eventually my love would change into something else and we could just be wonderful friends. It's funny, it never has, you know.

(W.S. Maugham, "The Book-Bag")

言う必要がないほどの当然を意味する **Of course**。相変わらず愛しているが、その気持ちを自分の心にとどめるといった、相反する論理構造を接続詞 **but** でプロファイルしている。一つの恋を清算する経験は誰しも経験しているはずであるが、自分には一度たりとも経験がないので **It's funny** という価値判断が下され、この判断も読者の価値判断と照らし合わせ

ても妥当であると語り手が思うので、you know と同意・確認をとっている。

(46)'Why Spain?'

'I don't know, I just have a fancy for it'

'It's not like Carmen, you know,' I smiled.

(W.S. Maugham, "The happy man")

(「なぜスペインなんだ」「分からない、ただ好きなんだ」「カルメンみたいな雰囲気じゃないんだぜ、いいかい」と僕は笑いながら言った。)

ここでは、「諭す」機能であるが、この you know の使用によって心理的な距離が近くなった状況であることが、smiled という発話動詞の代用でもその効果が判断できる。

(47)Inside the car, Ralph said, "It's not right, you know. It's not, is it? For Emma to find out like that. More or less by chance. And only when it was all over."

"It was all over very quickly," Anna said. "From what I gather."

(Hilary Mantel, *A Change of Climate*)

you know で主張の確認をし、後続文では、付加疑問文で呼応している。知っていることを確認、そして想起させる流れを考えると、you know と付加疑問文の機能上の類似性が見出せる。

(48)"I know, I'm sorry."

"I've got a lot of work, too, you know."

Mirella gave his neck a squeeze. "I'll try to get home early."

(Suzanne Berne, *A Perfect Arrangement*)

文頭の you know が turn-taking という話者交替は談話の再開の宣言であるのに対して、文末の you know は話者交替を聴者へ知らせる合図である。

文末 you know には、総括機能、情報修正機能そして情報伝達の確認機能がある。最後の確認機能は、同意を求めたり、念を押したりする機能であり、ある意味、付加疑問文に類した機能といえよう。また、総括機能の延長線上にあるのが、turn-taking という話者交替の合図機能である。

2. 3. 2 文末での感嘆符つき you know

最後に文末に生起する you know であり、ピリオドではなく感嘆符で終わっている例を検討いくことにする。

(49)'I wish you would,' said Mrs. Steerforth, with a smile.

'Oh! I really will, you know!' she answered. 'I will learn frankness from — let me see — from James.'

(Charles Dickens, *David Copperfield*)

(「できれば、してもらいたいんですが」「えっ、本当にするつもりですよ、いいですか」と彼女は答えた。「率直さを学ぶつもりです、えっとジェームズから」)

このような相手の提案にすべてのるケースでは、相手の提案は、相手にとって旧情報であり、知識そのものである。これはまさに「あなたの知っての通りです」であり、「あなたが言うように」の意味が出てくる。聴者の旧情報に即しての発話である。

(50) That you sent messages by, you know! Won't you speak to Master Davy?

(Charles Dickens, *David Copperfield*)

「あなたが伝言を送った、あの人よ、ほら」と意識のはっきりしない者に対して「ほら」と確認を促す。また、意識に入れたいというような本来状態動詞である know が動作動詞的に命令の対象となりつつある場面である。そして you know! に引き続き、否定疑問文という修辞技法によって命令に近い発話行為が成立している。

(51) 'Trot,' said she, 'I don't care for strange faces in general, but I rather like that Barkis of yours, do you know!'

'It's better than a hundred pounds to hear you say so!' said I.

(Charles Dickens, *David Copperfield*)

「初めて会う人は、ふつう好きになれないけど、あの「あなたの」バーキスは気に入っている」ということを事実の有無として知っているか否かを確認しているのではなく、「そういうことなの」と言った事実を断定している。これは、通常の you know ではなく do you know ではあるが、文末が疑問詞ではなく感嘆詞ならでの表現効果である。

(52) I have brought misery on what I dearly love, I know — you know!

(Charles Dickens, *David Copperfield*)

私は知っているが、「当然、お前も知っているな」という念を押す機能の事例である。また、I と you の対立がある故に、通常の確認機能より強調される結果となり感嘆符がつく状況になっている。

(53) 'A poor fellow with a craze, sir,' said Mr. Dick, 'a simpleton, a weak-minded person - present company, you know!' striking himself again, 'may do what wonderful people may not do. I'll bring them together, boy. I'll try. They'll not blame me. They'll not object to me. They'll not mind what I do, if it's wrong. I'm only Mr. Dick. And who minds Dick? Dick's nobody! Who!' He blew a slight, contemptuous breath, as if he blew himself away. (Charles Dickens, *David Copperfield*)

you know! の数行後に生起している contemptuous breath に呼応するように、あなたの知っての通り、馬鹿ですがと確認することで、自嘲的発言として機能している。

(54) As to general reading, dear me, what a lot of it I do get through! That's what I feel so strong, you know!

(Charles Dickens, *David Copperfield*)

「たくさん読める」従って「元気である」という推論が妥当であることを念押ししている。これは、「たくさん読む」ための必要条件の部分性を聴者に提示することで、発見的推論を促しているものである。グライス流に言えば、語用論的推論である。

(55)Not so much so as I could wish. But lawyers, sharks, and leeches, are not easily satisfied, you know!  
(Charles Dickens, *David Copperfield*)

(55)におけるサメもヒルも高利貸を意味し、それと並行的に弁護士も簡単に満足する人間ではないことを主張するために、聴者に高利貸が食欲であることを周知の事実として利用し、それを参照点として設定している。そして意外な事実、少々理解が困難な「弁護士の実態」に関してターゲットとして設定し理解可能なようにして、結果的に同意するよう主張している。

(56)'Tom,' she said, looking down, almost whispering, 'I'm like that— you know!'  
'Wot d'yer mean?'  
(W.S. Maugham, *Liza of Lambeth*)

「私はあれみたいなのよ、わかるでしょ」と相手に推論を引き出している。男女の間柄で「あれみたいなのよ」と囁く行為も、語用論的推論の最たるものである。グライスの協調の原理(Co-operative Principle)(Grice, 1989:26-7)における量の公理(Maxim of Quantity)に含まれる、「目的のために必要なだけの情報を与えよ」ならび、様態の公理(Maxim of Manner)の「明確な言い方をせよ」に違反する。結果的に、それらの違反により聴者は会話的推論を発動させることとなる。

ここから幾つかの強意表現の You know!を見ていくことにする。

(57)It seemed to please both of them, however, for they reinforced it with chuckling and mention of personages high in biblical circles, adding such further emphasis as "Oh, boy!" "You know!" and "I'll say so!" repeated many times over.  
(F. Scott Fitzgerald, "May Day")

further emphasis という抽象的表現の後で、具体的表現として展開された強意表現の語句の一つの You know!であり、このことから You know!に関して強意表現としての使用が、いたって自然であることが分かる。

(58)Rather past your prime, perhaps? Let us see if you can do any better this time. This time it's an easy one. Churston on the 30th. Do try and do something about it! It's a bit dull having it all my own way, you know!  
Good hunting. Ever yours,  
A B C.  
(Agatha Christie, *The ABC Murders*)



命令文に後続する *you know!* で注意を喚起させる機能。「いつも私の自由自在では、退屈だ」と事実を強調しながら提示することによって、相手を挑発する効果がある。文構造的には、動名詞の外置構文である。文末焦点としての内容は、聴者にとって旧情報であり、ドメイン内に背景化されたものを、あえてプロファイルすることで、前景化し、注意を促し、結果として威嚇となり、圧力を加える効果をもっている。

(59) "What is it, Isabel? What is it?" he said tenderly. They were in their bedroom in the new house. Isabel sat on a painted stool before the dressing-table that was strewn with little black and green boxes. "What is what, William?" And she bent forward, and her fine light hair fell over her cheeks. "Ah, you know!" He stood in the middle of the room and he felt a stranger. At that Isabel wheeled round quickly and faced him.

(Katherine Mansfield, "The Garden Party")

先行する *What is it?* に対して *What is what, William?* の返答に苛立ちを表現している。間投詞の *Ah* に引き続き、「本当はわかっているんだろ!」と *you know!* によって詰問する発話効果を生んでいる。*you know!* は文末と言うより、単体で使用される場合がよくあり、ある種、強意表現として機能している。

### 3. さらなる検討・考察

婉曲表現のみならず、日常言語の表現形式は省略に満ちている。聴者は常にいわゆる推論を働かせながら話者の真意をしかるべき文脈と照合しつつ発見していくものである。話者のドメインをすべてプロファイルすることは、量的な限界もあり、また伝達情報の意図から考えても無駄である。話者と聴者の間で共通したドメインを持つことは、何をプロファイルし、何を参照点にするべきか容易に判断できる。また、事態の眺め方も同じであれば、類似した価値観を持ちやすく、同意や同情もされやすい結果となるので、話者と聴者の心理的距離を縮めることにもなる。また、その心的距離感の近さを確認する行為が、*you know* という語句で可能となっているのである。

まずは、先行研究の興味深い非文事例を材料に考察を深化させていきたい。

#### 3.1 先行研究の知見との関係

(60)a. \*Bye now, you know.

b. \*What time is it, you know?

c. \*Oops, you know.

Schourup (1985:103)

(60a)の挨拶表現はそれ自体の文の真偽を確認は、必要としないものであり、また(60b)の疑問文に関しては、相手の意見だけではなく客観的事実情報を求めているので、相手との心理的距離を縮めたり、離したりする必要がない。さらに(60c)の間投詞自体に対しても、それ自体に程度性がないので、強調する対象ではない。また、間投詞は、命題内容をもたないため聴者にある情報を想起させることも出来ないし、当然、その内容の確認行為も存在しない。

本稿 2.1 において、「意外性」を表現する場面において生起する *you know* の事例として

提示したものであるが、ここではさらに考察を進めたい。

(61)Ryan: It was kind of like the big "Oh, no!" (laugh), you know, "Oh, no! I'm in love with you? Oh, no!" That feeling. (CNN)

*Oh, no* と発するべき場面での表現が困難なことや躊躇する気持ちを表現する意味作用に対してのその前提となる状況理解というメタ的な解釈に関して、話し手が聞き手に対して理解を求めている。*Oh, no!* に対して *That feeling* という表現を使用していることから、単なる機能語としての間投詞的なものではなく、誰でもが理解しうる感覚を共有し、*Oh, no!* に命題内容的な意味を持たせていることが談話標識 *you know* を経由してわかる。言うまでもなく、間投詞のみでなく、その発話のベースとなる情報に関して話者・聴者が共有できる状況を *you know* が提供している。

(62)'I wish you would,' said Mrs. Steerforth, with a smile.

'Oh! I really will, you know!' she answered. 'I will learn frankness from - let me see - from James.'

(Charles Dickens, *David Copperfield*)

事例としては、再録となるが、間投詞 *Oh!* に対して *I really will* が情報としてプロフィールされているものである。これも聴者の旧情報に即して展開している発話である。

### 3.2 *you know* の構成要素の検討

*you* は単なる人称代名詞のほかに、*you guys* のような呼格機能がある。

(63)But I'm telling *you guys* — if this is a joke, I don't appreciate it.

(Michael Crichton, *Timeline*)

(64)Mrs. Aoshima, believing herself out of earshot, whispered in Japanese, "That foreign woman is here, *you stupid fool!*"

(Sara Backer, *American Fuji*)

そもそも *you* には直示性があり、これらの *you* には呼びかけとしての機能が結果的に聴者を喚起させることになる<sup>5</sup>。

つぎに構成要素の一部である *know* における状態性・非状態性について考察をしていくことにする。(65)での述語動詞の *know* は、ある対象に関して知識があることを述べているので、一般の状態動詞である。また、(66)では *at once* とのコロケーションであることから判断して、「知っている」という純粋な状態動詞ではなく「すぐに気づいた」という状態変化を意味するものである。しかし自制不可能な述語動詞である。(67)の事態における述語動詞 *know* が自制可能現象であるから *ought to* に後続できるのである。このように動詞 *know* は、単なる状態動詞から自制可能な動作動詞まで、文脈に応じてその性質を変化させるのである。

(65)"I know what you mean, and that's why I'm not sure I'll agitate."

(F. Scott Fitzgerald, *This Side of Paradise*)

(君の言おうとすることは、分かっている。だから私が声を大にして訴えるかは、はっきりしないんだ)

(66)I knew at once that I'd be getting a lift in their car and that Baba would tell everyone in the convent about my father. (Edna O'Brien, *The Country Girls*)

(彼らの車に乗せてもらうことになるのは、直ちに分かったし、バーバが修道院の皆にわたしの父について語るであろうことも分かった)

(67)He's an amusing cove when he gets going, and I think you ought to know one another. (W.S. Maugham, "The Hairless Mexican")

(上手く行き始めるとおもしろい奴だから、お互いに知り合った方がいいよ。)

### 3.3 *you know* の確認機能

二人称の代名詞と知識を有している状態を表現する *know* の組み合わせは、グライス流に考えると量の公理に違反するので、一見、不自然となる。そのような場合、意図的な違反として処理され、トートロジー（同語反復）などと同じように、語用論的に意味が変化していると考えるのが妥当である<sup>6</sup>。形式上は、聴者の知識を反復しているので、知識の確認行為と考えられる。そして、そこから同じ知識を共有していることを経験すると、何か共通した経験、ものの考え方を持つ経験を通して仲間同士の感情が生じ、話者と聴者の親密度が増すために、話者は自分の気持ちを察してもらう、ある種の「甘え」表現ともなっている。

字義通りの意味を成さない場合は、間繋ぎの機能であり、これはある種、文法化であり、元の意味が希薄化し、内容語から機能語へ推移した結果である。また、既知情報をあえて確認することは、その知識を前提として、つぎの推論を起動されることを要求することになる。

つぎに提示するものは、明示的遂行表現であり、*you know* と生起する環境が非常に似た、*I remind you* という表現である。

#### <確認・念押し機能>

(68)"If you mean the Catholic church, I remind you I am a Catholic myself.

(Arthur Hailey, *The Evening News*)

まずは、「もし君がカトリック教会のことを言っているなら、いいかい、僕自身はカトリック教徒なんだ」と相手の発言内容に対して確認し、自分の立場を確認させた上で念を押している。

#### <but に後続する事例>

(69)As far as "the truth will set you free," and Leader Lott's commentary, I do like and respect Trent Lott. But I remind you that the president has already answered, very

directly, both of the central allegations.

(CNN)

(「真実が君を楽にする」そして指導者ロットのコメントの限りにおいて、わたしは、トレンドロットが好きだし、尊敬もしている。でも、いいかい。大統領はすでに、しかも直接、2つの供述に関して答えているんだ。)

このような「好きだし、尊敬もしている」という但し書きを付けた上で、**but** で方向性を反転させ話者の主張内容を確認させている。**you know** ともよく共起した **but** に後続する事例である。

<展開機能>

(70)LAUTENBERG: She's investigated three cabinet officers, I remind you, Cisneros, Espy and now Alexis Herman. (CNN)

三人の大統領府事務官たちと漠然と言及し、その後、実名で列挙し展開している機能であり、**you know** と類似した用法である。

<主語・主題に後続する事例>

(71)KING: What didn't you like about John Kerry's campaign? You said he wasn't tough enough about the issue of the service?

MCAULIFFE: Well, I talk about the campaign, and John, I remind you, got 9 million votes, more than anyone had ever gotten on the Democratic side.

(CNN)

主題のあとに **I remind you** を据え、題述である「900万票」を獲得したんだと言う事実を強調する機能である。

<疑問形式>

(72)KING: He is some actor, isn't he?

SCHWARZENEGGER: He is an incredible actor. And he's also underrated, may I remind you. (CNN)

聞き手が、「彼はたいした俳優ですよ」と付加疑問文で聞いてくると、話者は、「奴はすばらしい俳優だ。それに彼は過小評価されているんだ、いいね」と **you know?** の疑問形式のようにピリオドで終止しているが、**may I remind you** と疑問形式をとっている。

このような統語的振る舞いを観察すると、意味が統語形式を決定する重要な要素であることが分かる。

### 3.4 *you know* の疑問文形式

(73)I think there's so many people who look at you and they say my gosh, how can someone 25 years old be that confident?

BEYONCE: Well, I am confident and I think it starts with my parents, you know?

I had an amazing foundation. And my father was a strong father, a great male figure in my life, and my mother. And, you know, I had a great

childhood.

(CNN)

「25歳でどうしてそんな自信が持てるか」という質問に対して、「両親とともに始めたからだと思う」と相手の想定外の答えと話者が判断したために、「知っている？」と形式的な質問する形をとり、その直後、その具体的な両親との関係を述べている。問いと答えの自己完結型である。

(74)And then, you know, I looked in the mirror, and I'm just, like, I am fat, you know? I am fat. So I just, you know, started losing weight. (CNN)

I am fat であることの確認を you know? でとり、再度 I am fat を繰り返すことで、ダイエット実行の理由付けとしている。つまり、提示・確認・提示のパタンで、理由付けの強化となっている。

(75)But after Howard died — the whole thing is she wanted to become a princess, you know? She wanted a title. (CNN)

聴者にとって新情報と思われる she wanted to become a princess を you know? と共に提示し、すぐさま She wanted a title と別表現で展開している。

つぎに you know? (疑問形) と you know (平叙形) の連鎖現象である事例を見てみることにする。

(76)SMITH: Because Howard Stern and me, we used to have this love/hate relationship, you know? You know, I used to love Howard Stern, and he used to like me, and we used to pick at each other all the time, you know, but it was a fun thing. (CNN)

最初に love/hate relationship という情報提示を行い、聴者にとって新情報であったと判断しているので you know? を付加した。そして情報提示と同時に聴者のドメイン変化が起こるので、その聴者に組み込まれた love/hate relationship を You know で確認しつつ I used to love Howard Stern, and he used to like me で展開している。

(77)ANHALT: She is OK, you know? I mean she is in a wheelchair. She had an accident, you know, about...

KING: Yes, I know.

ANHALT: She recovered very well. You know, mentally she is perfect, you know? And the only thing is I... (CNN)

(77)ではそれぞれ you know? と you know の組み合わせで情報共有の確認を取りながら、情報を精緻化し、または聴者の情報の修正を施そうとしている心理の投影である。

you know? の表現形式には付加疑問文的機能を有しており、情報内容の知識の有無を問う場合と知識内容の念押し機能がある。また、形式上、疑問形であるために「問いとその答

え」という談話の流れが生じ、いわば *turn-taking* という発話権利の譲渡を、*you know?* と返答を要求することで発話を終了する合図になっている。さらに結果的に話者の主張を聴者に押し付けることはせず、最終的な判断を聴者に委ねるため、時として提案や断定の緩和効果が生じるのである。

### 3.5 *as you know* の形式

ここでは、*you know* と似て非なる *as you know* について考察を進めていくことにする。木内 (2000) で主張しているように *as* の語源は現代英語の *all+so* の組み合わせであり、その中核的な意味は、「まったくそんなふうに」である。つまり *as you know* は、その場で語られる内容は、聴者にとって周知の事実であるということを確認することで、話者と聴者の心的な距離を近づける効果を持っている。その結果、話者の主張の妥当性を示したり、同意を促したりする効果も有するのである。

また、この *as you know* という形式は *as* という情報的同一性を明示する語が言語化されているために、*you know* の内実を展開しているので協調の原理に抵触していない。

(78) Only a transplant could save my life. And as you know, we Japanese don't donate organs when we die. My doctor is progressive and he put me on a special list for a transplant at another clinic. (Sara Backer, *American Fuji*)

(自分が助かるには移植しかない。で、知っての通り、我々日本人は、死んでも臓器提供を行わないのだ。担当医が進歩的だったので、わたしを別の診療所の移植の特別リストに名前を載せてくれたのだ。)

移植に関する、日本の風土や価値観が周知の事実として確認され、それを前提にし、自分の担当医が進歩的であるか否かの主観的判断なされている。これも *as you know* の前提を押さえることで説得力のある流れとなっている。

(79) Well, Mary, as you know, I have tried to discuss this subject with you many times since then, but you have consistently refused to give me a hearing. Hence this note, and I can only hope that you will have the good sense to permit yourself to read it. It has taken me a long time to write. (Roald Dahl, "William and Mary")

*as you know* で共通経験 (聴者の話者に対する行為) を前提にする同意を要求し、話者と聴者の共通のドメインで議論を展開している。また、*but* 以降で聴者が自覚している事実であり、文末焦点によって話者の主張を強調し、その妥当性を示している。そして *Hence* 以降は覚え書を読んでもらうことを期待するしかないと述べている場面である。

## 4. おわりに

本稿は、談話標識の一つである *you know* に関して談話とその参与者との関わりを実例に即し、考察を行った。話者は意思伝達の目的達成を円滑に行うために、話者の持つ聴者に対するメタ知識を手掛りに、常に相手を意識した確認作業に基づいて会話が展開されていることが明らかになった。とくに談話の流れに対して意外性を示そうとする際の前振りと

して *you know* が挿入され、結果的に主張内容を焦点化するシステムを明らかにした。また、*you know* の確認機能は単に聞き手に対してのみに向けられるものではなく、自分自身の知識を整理する機能として話者本人にも向けられ、円滑な情報伝達を保障する機能を果たしていると本稿では主張した。さらに従来、単なる間繋ぎと理解されてきたこの *you know* は、より正確な情報伝達のために換言・精緻化を行う際のマーカーにもなっていることや、*turn-taking* という話者交替の開始・終止のマーカーにもなっていることを明示した。聴者にとって理解困難だと、話者に判断された事象に関しては、話者はその事象を説明する提示順序に、より注意を払うことになる。つまり、聴者にとって既知と思われる情報に関して確認を取り、それを起点とし、そこから目標となる情報に誘導していくのである。人間の参照点能力の観点から言えば、まずは参照点を確保し、そこから順を追って最終的なターゲットまで導くのである。まさに、*you know* の喚起機能は、この聴者の未知の情報を獲得するための語用論的推論を含め、思考の移動に貢献しているのである。

---

<sup>1</sup> *well, surely, indeed* のように文の調子を与えたり文意を強調したりしながら、話し手が自分の述べようとしている話の中身に対して一定のコメントを与えたり、一種の交通整理の役目をするつなぎの言葉としての不変化詞的なもの。本稿では *by the way* のような論理的なニュアンスの強いものも含めて、談話標識と呼ぶことにする。

<sup>2</sup> 認知語用論という用語は、まだ言語学の世界でも定着していない表現である。このアプローチに関する議論は、山梨(2004)を参照のこと。

<sup>3</sup> ここでの文頭、文中、文末は、大まかな便宜的な分類である。主語よりも左側が文頭で、主語よりも右側で、節の最も右側の位置である文末を除く部分を文中とする。ただし、同一話者の談話の流れが、ピリオドのあとも継続した場合、文中の扱いをする場合もある。

<sup>4</sup> (CNN) の表記形式を伴う例文は、筆者が構築した CNN コーパスからのデータである。

<sup>5</sup> *you guys* に見られる呼格機能に関しては、木内(2003: 36-9)を参照のこと。

<sup>6</sup> トートロジーに関する考察は、木内(2002:93-107)を参照のこと。

参考文献：

Biber, Douglas, et al. 1999. *Longman Grammar of Spoken and Written English*. London: Pearson Education Limited.

Grice, P. 1989. "Logic and Conversation" in *Studies in the Way of Words*, 22-40. Cambridge: Harvard University Press

木内修. 2000. 「As の語義とその用法の多義性：意味成分の分析と多義性の展開」『英米の言語と文学』 永谷万里雄・松倉信幸・鈴木繁幸（編）307-323. 桜門書房.

木内修. 2002. 「トートロジーに関する論理意味論的考察」『言語の世界』第 20 巻 第 1/2 合併号 93-107 言語研究学会.

木内修. 2003. 「同格表現における機能的典型性」『言語の世界』第 21 巻 第 1/2 合併号 27-41 言語研究学会.

Schiffrin, D. 1987. *Discourse Markers*. Cambridge: Cambridge University Press.

Schourup, L. 1985. *Common Discourse Particles in English Conversation*. New York: Garland Publishing.

Schourup, L and Toshiko Waida 1988. *English Connective*. Tokyo: Kuroshio Press.

- Sperber, D. and D. Wilson. 1986/1995<sup>2</sup>. *Relevance: Communication and Cognition*.  
Oxford: Blackwell.
- Stubbs, M. 1983. *Discourse Analysis: The Sociolinguistic Analysis of Natural  
Language*. Chicago: University of Chicago Press.
- 山梨正明. 2004. 『ことばの認知空間』 開拓社.

辞書 :

Collins Cobuild : *Collins COBUILD Advanced Learner's English Dictionary* (2004)